

オレンジリングが目印。

みんなで認知症サポーターになろう！

朗読者 フラッシュ嶋田

「オレンジリング」をつけている人を見ることがありますか？

このリストバンドをつけている人は「認知症サポーター」です。認知症について正しい知識を持ち、困っている人を見守り、必要に応じて手助けができる人たちです。

厚生労働省によると、2025年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると予測されるそうです。今や認知症は、誰もが関わる可能性のある身近な病気。サポートする人が必要とされています。

各自治体が行っている90分ほどの講座の受講で認知症サポーターと認定されます。その証として、オレンジリングと呼ばれるリストバンドがもらえるのです。また、児童や生徒、企業の場合、申し込みをすると希望する場所にキャラバン・メイトが来て、認知症サポーター養成講座を開いてくれます。講座では、認知症への理解、認知症の人と接するときの心構え、対応を学ぶことができます。

認知症の症状は、脳の細胞が壊れることによつて起こります。認知症の人の中には、時間や場所の認識が薄れ、近所でも道に迷ったり、自宅トイレの場所が分からなくなったりすることがあります。

認知症は高齢者だけの病気ではなく、65歳未満の人にも発症します。それを若年性認知症と言います。若年性認知症の人は、働き盛りで就学期の子どもがいる場合もあり、もし仕事を辞めなければならなくなったら、経済的にも困難を抱えてしまいます。また、高齢の人に比べ、周囲の人や家族が病気を理解し、受け入れるまでに時間がかかることがあります。現役途中で認知症になった人に対して、職場や地域でサポートをすることも、とても大切なことです。

38 認知症について正しい知識があれば、大丈夫かな？と優しく見守り必要であれば手助けをすることができるよう。現在、福岡市の認知症サポーターは9万602人。もし、街中の人みんな認知症サポーターだったら？ 夢のような話ですが、きつともっと優しく安心な街になるはずです。認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるでしょう。あなたも認知症サポーターになりませんか？